



JOINの活動について

2017年2月17日
 そうだ、地方で暮らそう！国民会議 配布資料

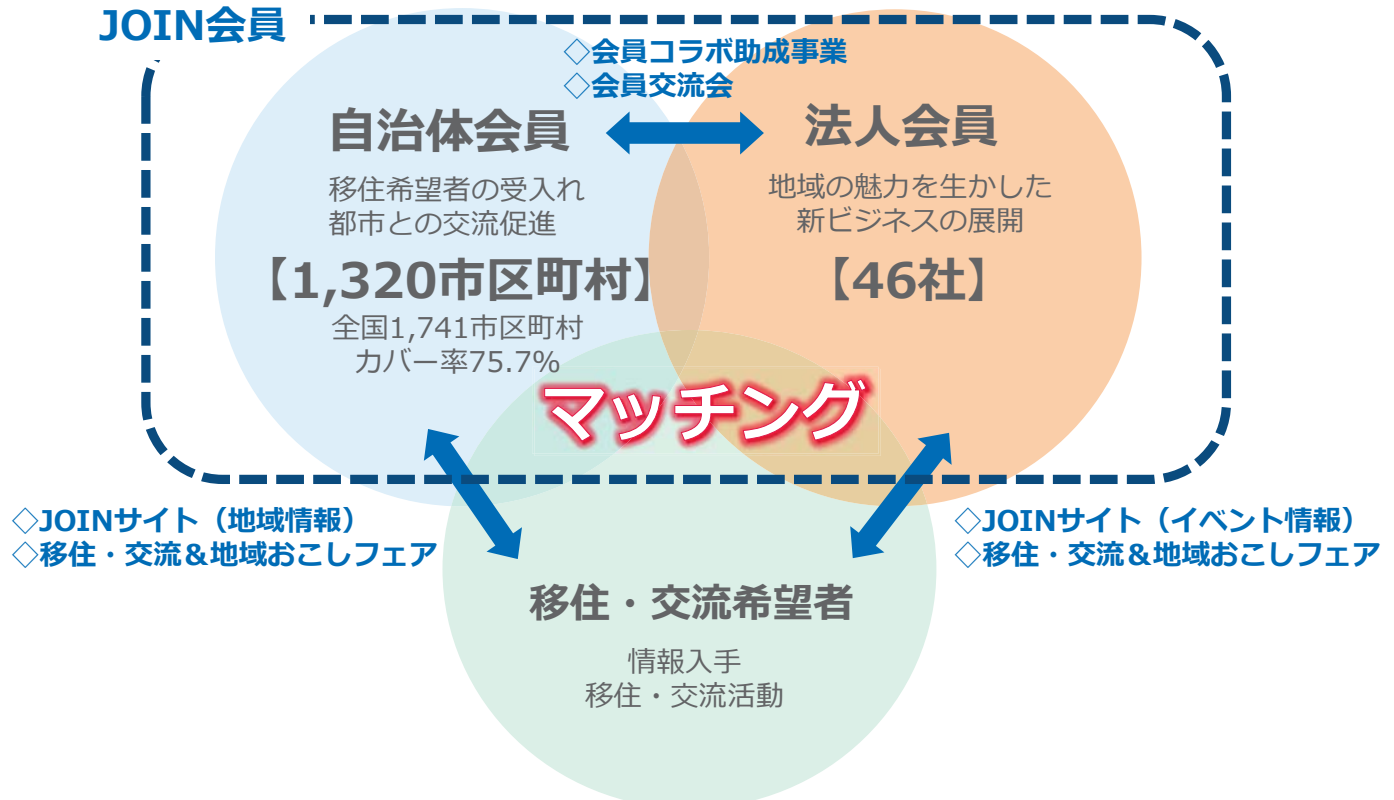
一般社団法人 移住・交流推進機構 (JOIN)

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4
 日本橋プラザビル13階
 TEL(03)3510-6581
 URL: <http://www.iju-JOIN.jp>

JOINの活動概要



JOIN会員

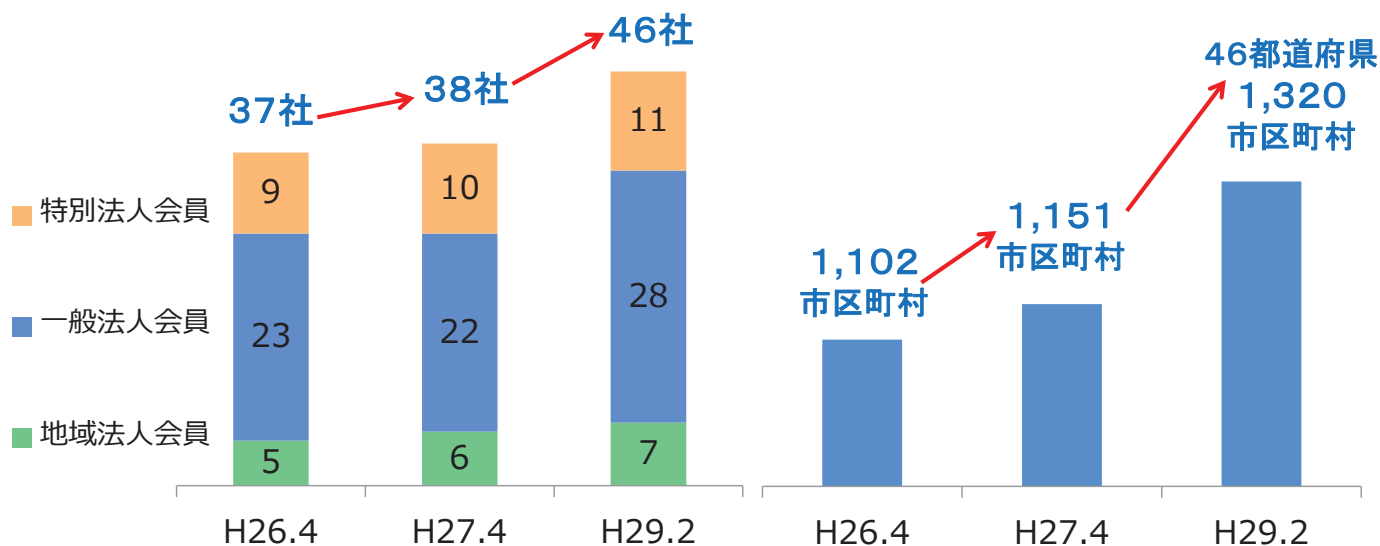


JOIN会員数動向



法人会員

自治体会員(市区町村)



▶ 2

移住情報ポータルサイト 「ニッポン移住・交流ナビ」



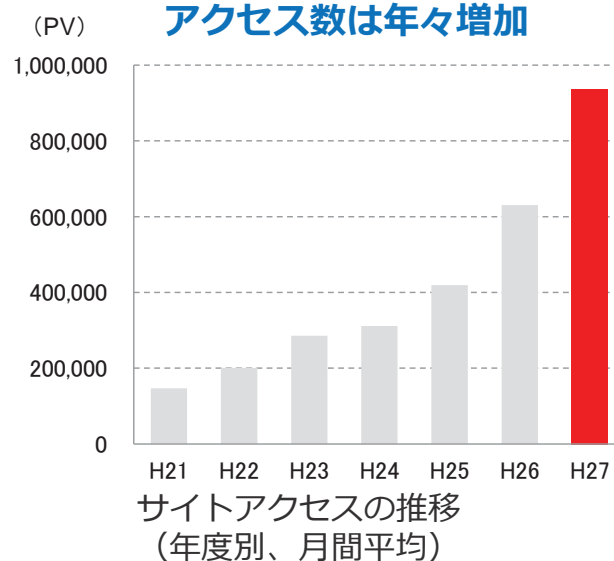
ニッポン移住・交流ナビ
URL: <http://www.iju-join.jp/>

地域おこし協力隊、田舎暮らし特集、仕事、住まい、イベント情報、自治体情報ページなど、移住希望者が求める情報を発信

サイトアクセス

H27年度 **94**万PV/月
(H26年度 63万PV/月)

アクセス数は年々増加



昨年度対比 **50%** ↑

▶ 3

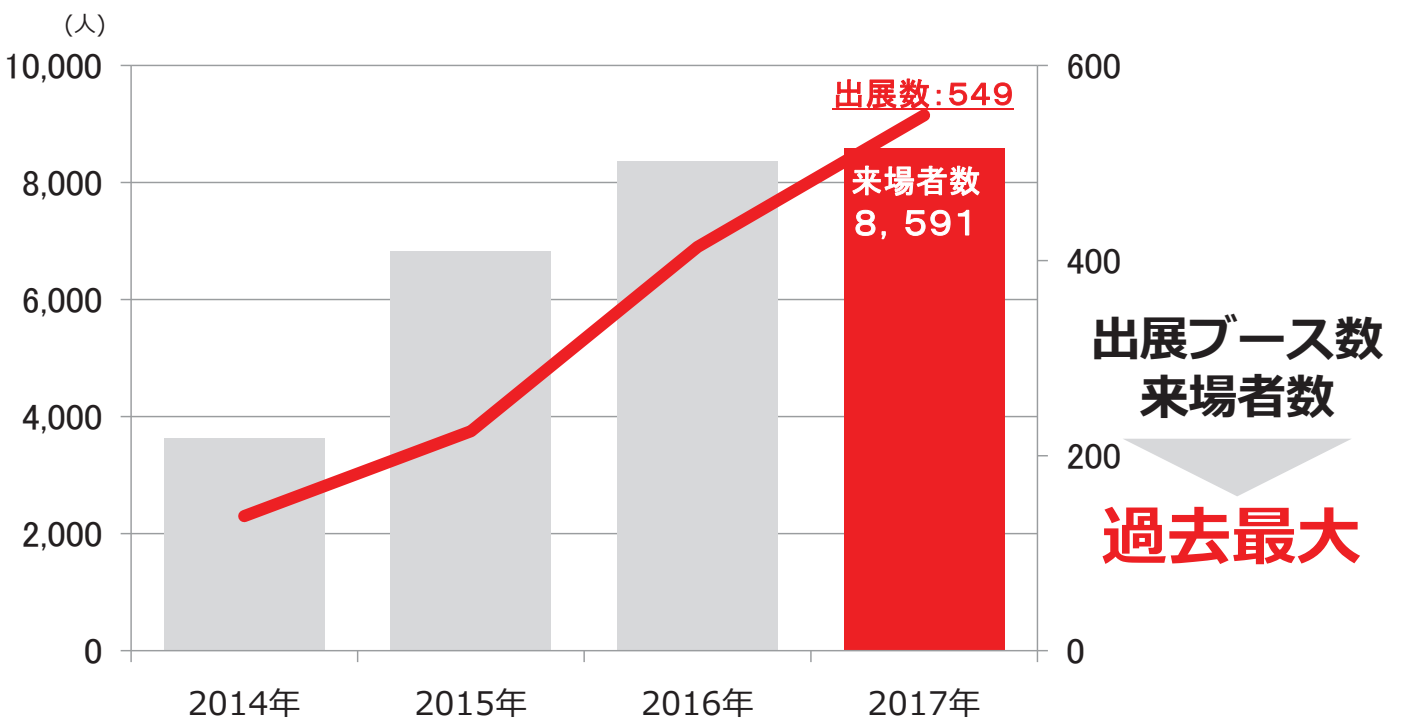
JOIN移住・交流&地域おこしフェア2017

- 開催日程 : 2017年1月15日(日)10:00~17:00
- 開催場所 : 東京ビッグサイト 西2ホール (東京都江東区有明3-11-1)
- 入場料 : 無料
- 主催 : (一社)移住・交流推進機構(JOIN)、総務省
- 後援 : 農林水産省、厚生労働省、観光庁、(一財)地域活性化センター
- 協力 : 東京労働局ハローワーク品川、(一社)全国農業会議所、東京おもちゃ美術館



▶ 5

JOINフェア 来場者・参加団体数の推移



▶ 6

JOIN会員（自治体×企業）コラボ事業

山形県鮭川村 × 日本生命



自治体会員



山形県北部に位置し、人口約4,300人。毎年80人から100人ほど人口が減っている。人口減少が進む中でにぎわいを取り戻したい。



法人会員



ニッセイの森（CSR事業の育樹活動）が鮭川村にあるが、手つかずの状態が続き、有効活用を模索。

【 2016年7月29日～31日／約100名が参加（日本生命約70名、地域住民約30名） 】
 都会の企業（日本生命）に勤務する「大人」が農作業や植樹体験を手伝いつつ、地域住民と交流する。企業は人材育成の一環として活用し、受入地域にとっては賑わい創出に加え、地域の魅力再発見にも繋がる。



▲ 歓迎時の様子



▲ 交流(芋煮会)



▲ 育樹活動の様子

▶ 6

鮭川村×日本生命 掲載記事

無人駅の羽前豊里駅で出迎えを受けた日本生命の社員たち＝鮭川村

都会と農村 深い交流で刺激

過疎やにぎわいの喪失という農村の課題と、都会の企業の人材育成や社会貢献などをまとめて解決する「農都交流プロジェクト」が県内で広がっている。7月には日本生命保険の社員約70人が鮭川村を訪れた。

このプロジェクトは、ただの観光ではなく、都会の「大人」が農作業や植樹を手伝いつつ、地元住民と交流する。日本生命の社員は夕食を一緒に準備して交流会に参加し、そのまま農家に宿泊した。その後、鮭川村で植樹した「ニッセイ鮭川の森」で下草刈りなどの手入れをし、村内のキノコ栽培施設を見学したという。

プロジェクトを提案した移住・交流推進機構（JOIN）の石川智康総括参事は「大人と大人が交流することによって、遠慮なく、お互いの悩みを語り合える」と指摘する。企業側は農作業を通じて社員に一体感が生まれるうえ、地方活性化の社会貢献をPRできる利点がある。地元側は受け入れの負担が少なく、都会の視点を取り入れた地域資源の再発見などにもつながる。県内では鮭川村のほか、飯豊町などでもプロジェクトが進められている。

「村の人たちが誇りを持って暮らしていることが伝わってきて、刺激がある」と日本生命の白川遼・CSR推進部課長補佐は言う。鮭川村むらづくり推進課の佐藤義彦課長は「村にどんな資源や魅力があるのか意見をいただき、いい点をさらに強化していきたい」と話した。（三木一哉）

「農都交流プロジェクト」広がる



▶ 7

(2016年9月28日、朝日新聞)